

日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所/日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座内・TEL(03)3433-1111 内2266・FAX(03)5472-7526・発行責任者/清水 英佑



船の修繕：外板の研磨作業 昭和50年代後半頃からの高所作業車の導入により安全性が向上した
(写真提供 廣尚典)

新世紀と作業環境管理の課題

興 重治 (中央労働災害防止協会参与)



労働者の健康に好ましくない影響を及ぼす作業環境因子を作業環境から除去することにより、健康障害を防止しようとする考え方は労働衛生の分野では古くから実施されていた。

しかし、この考え方が体系化され一般的になったのは、昭和47年労働安全衛生法が施行され、その中に事業者の責務として、作業環境測定が義務づけられてからである。作業環境測定基準の告示、作業環境測定士を制度化した作業環境測定法の施行、さらに作業環境評価基準の告示などにより、作業環境管理は作業環境測定を軸として、規制面から整備が行われてきた。しかし、作業環境管理のあるべき姿を考えると、まだ解

決されるべき多くの課題が残されている。ここでは、そのうち基本的な2つの点を指摘しておきたい。

第1点は作業環境測定士の資質、能力の向上である。確かに測定士の業務は作業環境測定の実施であって、結果の評価やそれに続く作業環境改善までは含まれていない。しかし、作業環境測定は作業環境管理の出発点であることを考えると、的確に測定の目的を理解し、測定の結果から必要に応じて適切な改善の具体策まで実行できる能力をも備えた測定士の養成を急ぐ必要がある。

第2点は、作業環境管理は作業管理、健康管理と併せて労働衛生管理が成り立っていることを理解し、それぞれの管理の相互理解と協力体制が十分とはいえない現状を打開していくための道筋を探索し実行に移すことであろうと考えられる。

第212回例会報告

新津谷真人 (北里大医)



第212回例会が平成13年2月17日(土)に北里大学医学部(相模原市)で開催された。参加者は223名(会員159名、非会員64名)であった。

プログラムは特別講演2題とシンポジウム1題という構成であった。

特別講演1は、北里大学名誉教授の高田勲氏から「21世紀における産業医学：職業生活の質的向上を目指して」、特別講演2は神戸大学大学院法学研究科教授の丸山英二氏から「個人情報保護と産業医活動」であった。

シンポジウムでは、北里大学医療衛生学部教授の中村賢氏と富士ゼロックス産業医の河野慶三氏の司会のもと「産業保健活動と個人情報管理」について討論が行われた。

シンポジストは、古河電気工業産業医で昭和大学医学部客員教授の中村健一氏、NKK 京浜保健センター(現産業医科大)堀江正知氏、中央労働災害防止協会技術支援部の菊池昭氏であった。まず中村氏はプライバシー保護の対象となる情報の種類について述べ、次に堀江氏は国内外の健康情報の取扱いに関する規範を紹介された。そして厚生労働省から出された「労働者の健康情報に係わるプライバシーの保護に関する検討会中間まとめ」を詳細に解説した。菊池氏は衛生管理者の立場から事業場における個人健康情報管理の問題点を指摘した。

今後は産業保健活動においても個人情報管理に十分な配慮が求められることから、参加者からも多数の意見が出され提言が行なわれた。

第213回例会報告

稲垣弘文 (日本医大)

第213回例会は、平成13年5月19日、平成13年度総会の終了後、日本医科大学千駄木キャンパス大講堂において開催された。今回の例会も日本医師会認定産業医研修及び産業看護継続教育研修に指定されたためもあってか、226名(会員155名、非会員71名)もの参加者が集い、ほぼ満員の状態となった。本例会は、教育講演及びシンポジウムの2部構成で行われた。

清水英佑地方会長の挨拶に続き、南正康氏(日本医大)による教育講演が行われた。「サリン及び類縁物質被曝と勤労者」と題された本講演では、1995年3月に起きた地下鉄サリン事件における被害者のほとんどが出勤途上の勤労者であったこと、被害者より得られたサンプルの分析によってサリン以外の物質への被曝が確認されたこと、このために悪性腫瘍発生のリスクの増大が考えられること、5年以上経過しても後遺症と思われる変化が見出されること等が示され、今後も医学的、社会的なフォローが必要であることが述べられた。また、神経行動学的変化については、大前和幸氏(慶大医)より特別発言があった。

後半のシンポジウムは、「産業衛生—最近の動向」と題し、5つのトピックスについて、各々の専門家による講演が行われた。

- ・サラリーマンのうつ病について
高橋亨氏(とおる医院)
 - ・疲労・ストレス状態と循環器疾患との関係
前原直樹氏(労研)
 - ・職場の喫煙問題 一分煙と禁煙支援—
斉藤麗子氏(村山大和保健所)
 - ・女性の労働環境の変遷 千葉百子氏(順大医)
 - ・砒素およびインジウム系半導体物質の毒性と曝露評価法
山内博氏(聖マ医大)
- フロアからも多くの質問が出され、活発かつ有意義な例会となった。



産業看護研究会報告

古谷たき子 (NTT 栃木)

平成13年1月27日(土)東京ウィメンズプラザ(港区)において、第20回関東地方会産業看護研究会が開催された。

研究会当日は、関東地方に大雪警報が出されるという悪天候の中での開催となった。「参加者は無事会場にたどりつけるだろうか?」と、主催者一同が心配するなか、43名の参加者を迎えることが出来た。

鎌田登志子世話人代表、清水英佑関東地方会長の挨拶に続き、「ヘルスプロモーションの理念と健康教育の考え方」というテーマで、群馬大学医学部保健学科教授吉田亨先生による講演が行われた。

講演は、ヘルスプロモーションへの道筋、ヘルスプロモーションの展開、プリシード/プロシードモデルについてなど、地域での取り組みの例をあげながら、具体的かつ実践的内容であった。質疑応答では、「健康教育を行うための組織への働きかけはどうか?」、「アメリカで考えられたヘルスプロモーションモデルを、日本で取り入れるにはどうしたらよいか?」など活発な討論が行われた。吉田先生のお話では、「プリシード/プロシードモデルは、診断的立場で健康教育やヘルスプロモーションに取り組む際、問題点を分析していくためのツールとして優れている」ということであった。

健康教育は50年以上の歴史があり、健康教育の目的も知識普及からQOL(生活の質)向上へと時代とともに変遷している。産業看護職が対象のQOLを高めるための支援活動をすすめるには、個人への働きかけにとどまるのではなく、社会資源や対象を取り巻く人々、組織への働きかけが重要であることを改めて学ぶことができた。



理事会報告

清水英佑 (慈恵至大)

平成12年度第3回と13年度第1回理事会報告抜粋

- 1.定款改定について：厚生労働省との折衝は代議員制度に対する疑義のため難航している。そのため、平成13年度実施の選挙は前回と同一方法で行う。尚、3月に労働基準監督署の監査を受け、就業規則の整備等何点かの改善勧告を受けた。
- 2.第76回日本産業衛生学会は、平成15年4月下旬に山口市で芳原理事が担当する。
- 3.第12回産業界・産業看護全国協議会(小山和作企画運営委員長)は熊本県で平成14年10月25・26日に開催。
- 4.平成12年度事業報告、収支決算見込み報告、平成13年度事業計画および予算の各案が了承された。
- 5.専門医制度委員会委員が交代し、岩田、大久保、大原、浜口、圓藤、大前、東の各委員が就任した。また、現況は指導医297人、専門医72人。専門医試験日は8月25、26日に行う。
- 6.大前編集委員長より、2002年11月に台北で開催のアジア労働衛生会議(ACOH)で発表された演題中、selected papersをJOHに掲載の依頼があった。理事会で検討の結果、JOHの目的に適合し実績になる、国際貢献に有意義、対外的アピールとなる等の理由から承認した。今後、論文の質の保証、経済的負担方法等につき詰めてもらう。
- 7.許容濃度提言増補版印税が中防災より入金。
- 8.産業衛生技術部会規程案は他の部会規程と整合性を取りそれまで内規として運用する。部会長、副部会長が了承された。幹事は各地方会で承認する。
- 9.労働衛生関連法制度検討委員会を発展的に継承する。
- 10.学会表彰制度の規約等を機関誌に掲載し来年度より運用する。
- 11.奨励賞受賞者に田中茂先生(北里大医療衛生)が選定された。
- 12.個人情報保護法に学会として要望書を提出。
- 13.中央選挙管理委員会が発足し、選挙実施要項が承認された。地方会選挙は9月25日投票締め切り日としてのスケジュールで行う。
- 14.産業保健生涯教育ガイドライン要綱が承認された。
- 15.学会事務の電子化のためのワーキンググループ(担当：浜口、芳原の両理事)ができた。

幹事会報告から

鈴木勇司 (慈恵医大)

1. 村田勝敬氏、堀江正知氏、有藤平八郎氏、細貝浩章氏、金子颯雄氏、羽生田俊氏の各幹事の辞任が承認された。
2. 小川康恭氏、神保恵子氏、武田桂子氏、廣尚典氏、榊元武氏、柳澤裕之氏の幹事就任が承認された。
3. 平成12年度第3回および4回幹事会議事録が承認された。
4. 第214回一泊例会・第45回見学会(相澤好治企画運営委員長、新津谷真人当番幹事)は、平成13年8月3日・4日相模原市南メヂカルセンターにて開催予定。特別講演「職域における個人情報保護」(水島春朔)、ワークショップ「職域における個人情報の取り扱いについて」(杉森裕樹、斎藤由紀子、他)、シンポジウム「職場における化学物質管理の今日的課題」(小野宏逸、宮田幹夫、秋山一男、田中茂)。見学会は、住友スリーエム、新キャタピラー三菱、日産自動車で行う。
5. 第215回例会(中館俊夫当番幹事)は、平成13年12月8日昭和大学大上講堂にて開催予定。一般講演、教育講演「職場における呼吸器疾患の管理、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の早期発見と管理を中心に」(永井厚志)、シンポジウム「健康診断の実施と事後処理」(演者交渉中)。
6. 第216回例会(八上享司当番幹事)は、平成14年1月19日東京簡保会館・ゆうぼうとホールにて開催予定。「先端化学産業におけるメンタルヘルスマネジメント」(松崎一葉)、「企業内の危機管理(リスクマネジメント)とメンタルヘルス対策」(小西聖子)、「職場集団の〈仕事上のストレス判定図〉」(下光輝一)、「職場の抑鬱症のリスクファクター調査」(井上令一)、ビデオ映像「宇宙のマホロバ」(毛利衛)。
7. 中小企業衛生問題研究会第34回全国集会在平成13年1月27日かながわ県民センターで開催された。現在の名称、中小企業衛生問題研究会から中小企業安全衛生研究会と改称予定。
8. 第11回産業医・産業看護全国協議会が平成13年10月19日・20日に京王プラザホテルにて開催予定。第1回企画運営委員会が平成13年1月31日に開催され、企画運営委員(産業医部会から23名、産業看護部会から16名)が選出された。内容は案内を参照。

9. 日医認定産業医制度産業医研修会シール代は会員から実費として100円を徴収、非会員については参加費に含む。
10. 平成13年度関東地方会役員選出選挙を行う。選挙管理委員長は大前幹事に委嘱された。
11. 第8回産業精神保健学会は、平成13年6月22日・23日杏林大にて開催予定。
12. 関東地方会産業衛生技術部会の発足が承認された。
13. 第48回労働衛生史研究会は相澤好治理事が担当。

平成13年度総会

鈴木勇司 (慈恵医大)

平成13年度総会は、平成13年5月19日に日本医科大学大講堂にて開催された。

1. 議長として南正康教授(日本医大)が選出された。
2. 平成12年度事業報告・決算報告について
 - (1) 事業報告(案)が承認された。
 - (2) 会計監査が平成13年5月2日に和田攻監事と田村静夫監事により行われ、適切な会計処理がなされていることが田村静夫監事より報告された。
 - (3) 決算報告(案)が承認された。
3. 平成13年度事業計画・予算について
 - (1) 事業計画(案)が承認された。
 - (2) 予算(案)が承認された。
4. 平成13年度に役員選挙が行われる旨が、清水英佑地方会長より報告された。大前和幸選挙管理委員長と15名の選挙管理委員が選出された。
5. 関東地方会産業技術部会の発足が承認された。
6. 第11回産業医・産業看護全国協議会(埋忠洋一企画運営委員長)が関東地方会の主催で行われる。

—選挙の年です—

今年は役員選挙の年となります。規約により選挙権および被選挙権は前年度より引き続き正会員であり、かつ7月31日まで本年度会費を納入した正会員に限られますので会費未納入の方は7月31日までに納入することをお勧めします。

選挙に関する詳細は、産業衛生学雑誌(43巻3号、2001年5月発行)のA46~A47ページに記載されています。

研究室紹介

獨協医科大学衛生学教室

松井 寿夫

○研究活動

有機溶剤の曝露指標としての尿中代謝産物の測定、有機錫化合物の生体内代謝と毒性との関連、トリフェニル錫によって起こる糖尿病の発現機序解明、培養細胞に対する植物抽出物や乳成分の生理活性物質の影響などに関して研究している。

現在の主な研究内容は、

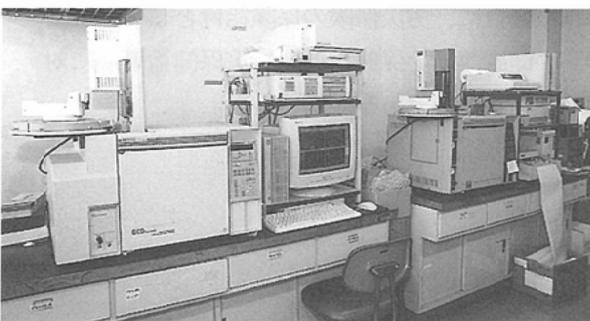
- 1) 有機錫化合物の生体への影響を有機錫の生体内代謝との関係から検討。我々の開発した、ガスクロマトグラフ(写真)を用いての生体試料中有機錫化合物の分別一斉測定法を利用し、毒性の動物種差と有機錫代謝能の種差との関連、毒性発現と有機錫の組織中での化学形態別蓄積量との関連の究明。
- 2) 有機錫化合物の生体内代謝に関与するP-450分子の同定、P-450の誘導および阻害による毒性の変化の検討。
- 3) トリフェニル錫によってウサギ、ハムスターに起こる可逆的糖尿病について、その発現機序の解明。トリフェニル錫糖尿病ハムスターの腓ラ氏島、ラ氏島β細胞について細胞内カルシウム画像解析装置などを用いてインスリン分泌抑制の機序を検討。
- 4) 培養肝細胞を用いての植物抽出物の生体作用、乳成分中のラクトフェリンの小腸粘膜での局所免疫への関与の検討。

○教育活動

主として環境と健康との関連についての分野の講義を担当し、環境保健、産業保健、食品衛生、感染症予防、衛生行政を分担し、3学年に行っている。

○社会活動

労働基準監督署の職業病相談員、産業保健推進センターの運営協議会委員などのほか、産業医資格取得のための産業医学講習会(同窓会が実施主体)の講義、実習等に関与している。



産業保健実践活動報告 (第3回)

健診業務のアウトソーシング化

大菌 裕(富士電機・吹上)

まだ産業医修練2年、専属産業医として2年の計4年しか経験していない新米産業医ですが、最近の産業保健活動の報告をいたします。

現在私が活動しているのは2千人規模の電機機器製造事業所で、専属



産業医1名、看護婦3名、保健婦1名の計5名で産業保健活動を行っています。

さて、企業を取り巻く環境の変化、労働形態の変貌、企業の経済状況変化はめまぐるしく、事業所からの期待や要望に対応すべく専属産業医および事業所内健康管理スタッフは日々奮闘しているわけですが、残念ながら会社の人員的にも業務の手間の面からも会社が丸抱えできる業務は段々と少なくならざるを得なくなり、可能な業務からアウトソーシング(外注化)していくという時代に入ったと思われま。

我々の事業所でも健康診断に関しては正にそうであり、健診当日の計測から個人票および結果通知の作成・健診結果の仮判定および健診データの電子化に至るまで外部健診機関に委託しています。

会社独特の風土からの価値観などによる微妙な部分は常勤スタッフで対応していますが、外部健診機関で行った方が良い業務はなるべくアウトソーシングするようにしています。

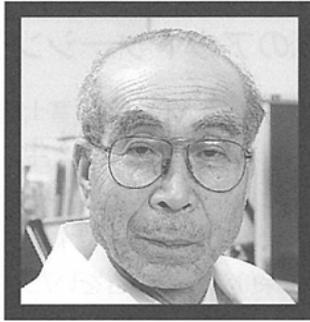
そのような場合、企業内産業保健スタッフに求められるものは、

- ・ 実現可能でしかも有用性の高いオーダーを外部に出せる能力
- ・ 外部健診機関とのコミュニケーション能力
- ・ 返ってきた健診結果のチェックのみでなく検体検査の基準値や学会ガイドラインの変更などを速やかに把握できる能力

が大切であると実感しました。

産業保健のアウトソーシング化が進む中、今後、企業内産業保健スタッフにも上記のような能力が問われる時代になってきたと考える次第です。

戸田弘一先生のご逝去を悼む



小池慎也 (神奈川県予防医学協会)

働く人の健康と幸せな生活を追求して労働衛生の実践活動に尽してこられた戸田弘一先生が、去る3月13日に享年89歳で逝去され、誠に痛恨のきわみである。

戸田先生は昭和10年に東京帝国大学を卒業し、海軍軍医として戦時中に公衆衛生院の石川知福先生のもとで衛生学の研究に従事した。敗戦後、労働科学研究所に勤め、昭和23年に日本鋼管(株)に入社し、混乱期の製鉄所の厳しい作業環境や労働条件の中で、働く人々のためにその改善に尽した。また、日本鉄鋼連盟の中に衛生委員会を作り、機関誌「鉄鋼労働衛生」の発行(昭和26年)に尽力するとともに、労働衛生保護具に関する日本工業規格の制定に取り組んだ。

先生は労働衛生団体の組織化に造詣が深く、神奈川県労働衛生協会を結成(昭和24年)した後に、全国衛生管理協議会の設立(昭和29年)に際し中心的な役割を果たした。また、日本産業衛生学会の各種研究委員会の委員長を務め、昭和28年から36年まで関東地方会の第3代目の地方会長を歴任した。

先生は昭和42年に日本鋼管病院副院長を退任され、すぐに(財)神奈川県予防医学協会の活動に身を投じられた。以来30余年にわたり先生が情熱を傾けた労働衛生活動は多くの事業所に根を下ろし、働く人たちの健康増進のうえで大きな役割を果たした。また、全国労働衛生団体連合会の設立に尽力し、20年間にわたり技術専門委員長を務める一方、日本作業環境測定協会や日本労働安全衛生コンサルタント会の設立と発展に寄与された。

先生は労働衛生に対する熱い情熱と強い信念を持ち、旺盛な行動力によって実践活動に専念され、50余年にわたり指導的な役割を果たしてこられた。先生の温顔あふれる暖かい人柄は多くの人に敬愛され、尊敬と信頼を一身に受けてこられた。

ここに深甚なる感謝を捧げ、戸田弘一先生のご冥福を心から祈念申し上げる次第である。

行政ニュース (最近の動きから)

市川正明 (中災防)

1. 「国民栄養調査」結果の公表

(厚生労働省)

厚生労働省は先ごろ、「平成11年国民栄養調査結果の概要」を公表した。調査は平成11年11月に全国約5,000世帯、約15,000人を対象に実施されたものである。

それによると、男性の肥満が増加し、とりわけ40歳代男性に占める肥満者の割合は30%を超えていることが分かった。また、男性は30歳代、女性は50歳代からほぼ2人に1人が「高脂血」状態であるにも拘わらず、それを認識している者の割合は30%程度に過ぎず、食生活上の知識も不足しているとの実態が浮き彫りにされた。

2. 「環境報告書ガイドライン(2000年版)」

の策定(環境省)

環境省では、このガイドラインを広く普及することにより、事業者による環境情報の開示を促進し、事業者の環境保全に対する自主的な取り組みの適切な進展を旨ざそうとしている。その内容は、1.基本的項目、2.環境保全に関する方針、目標及び実績等の総括、3.環境マネジメントに関する状況、4.環境負荷の低減に向けた取り組みの状況等にかかる項目で、18項目が提示されている。

3. 「二次健康診断等給付制度」の創設について

(厚生労働省)

労災保険にかかる法律の一部が改正され、平成13年4月1日から労働者災害補償保険制度として二次健康診断等給付制度が創設され、運用されることとなった。

本制度は、労働者の業務上の事由による脳血管疾患及び心臓疾患の発症を予防するために行われる定期健康診断等で1.血圧測定、2.血中脂質検査、3.血糖検査、4.肥満度の測定 のいずれの検査においても異常所見が認められた場合に、労災保険の保険給付として、より精度の高い健康診断と保健指導(特定保健指導)に対して給付されるものである。

関東地区学会・研究会開催予定

第15回国際夜勤交代勤務シンポジウム

夜勤交代勤務管理の新戦略

日時：2001年9月10日(月)～13日(木)

会場：湘南国際村センター(神奈川県三浦郡葉山町)

会長：小木和孝 先生(財団法人労働科学研究所)

産業衛生技術部会発足のお知らせ



伊藤昭好 (労研)

5月19日の地方会総会において、関東地方会産業衛生技術部会の発足が認められた。これは4月に高知の学会総会で発足が承認された産業衛生技術部会の基礎

体力アップをはかるために、まず部会員拡大をめざして、各地方会で部会を組織して地道な活動の中でネットワークを広げていくための第一歩である。現在全国レベルで229名の会員が登録されており、うち関東地方会が112名となっている。

本地方会部会では、全国部会の規定に準拠して運営をすすめる予定であるが、規定には、その目的を「産業衛生分野における諸技術の向上、発展をはかることにより、産業衛生学の進歩に資することを目的とする。」とうたわれている。部会員は、この目的に賛同される学会員であれば、どなたでも入会できるので、積極的に参加していただきたい。規定には部会の事業として、「産業衛生技術に関する研究集会の開催、産業衛生技術に関する調査研究、産業衛生技術に関する教育研修、産業衛生技術に関する資料の収集、編纂、その他本部会の目的達成に必要な事業」があげられているが、そのコンセプトは、職場の環境改善をはかることによって産業保健のレベル向上に寄与することだと個人的に考えている。

部会のホームページも開設されている。

<http://www.isl.or.jp/JSOHech/TOPPAGE.html> から入ると、部会規定を始め、これまでに発信された文書、4月の学会でのシンポジウムの際の各演者の先生方のスライドなどをダウンロードできる。

全国の部会長は麻布大学の中明賢二教授だが、地方会の代表は、地方会幹事でもある小生が若輩ながら引き受けさせていただくことになった。今秋に東京で開催される部会大会に合わせて、地方会独自の研究会を是非企画したいと考えている。

入会希望の方は是非小生(a.ito@isl.or.jp)までご一報いただきたい。

《 編集委員名簿 》

◎伊藤岩美、安達修一、稲垣弘文、宇佐見隆廣、内山寛子、大久保靖司、沖野哲郎、川田智之、河野啓子、小峰慎吾、○鈴木勇司、原美佳子、廣尚典、村上正孝、渡辺哲、◎編集委員長 ○事務局

編集後記

初めて編集委員なるものを担当させていただいております。締め切り間近の校正は、なかなか大変な作業です。筆者ご本人に成り代わり、編集委員が責任をもって、念には念を入れ、さらに念を入れて行っています。紙面の都合で語尾など少し変えさせていただきますが、苦勞しております。もっともっと皆さんの声をこちらに届けていただきたいと願っています。求人広告などの掲載も検討しております。次号もご期待下さい。(内山)

早いもので、編集のアシストを仰せ仕ってから、20カ月が過ぎようとしています。清水地方会会長が所願としていた、会員相互の交流対話がミレニアムの春から始まり、今回で第4号となりましたが、そのタッチは如何でしょうか、本号から後記は伊藤委員長の強権発動でダブル記載となりましたので、愚生は委員会の楽屋内を発信させていただきます。編集委員は地域ごとに、産と学からほぼ均等に、伊藤委員長の豊潤な応召に、何の見境もなく素直に従った弱き者で構成されています。これまでの交流対話の善し悪しについては、勿論、私ども編集委員にその責がありますが、内実をお話ししますと、委員長の独演・独断場と化しているのが実情です。弱き者として、それなりに多士済々ですが、確固たる見識もなく、委員長の博雅に戦くような懂れをよせ、これまで、ただ茫々と漂っていたので、その功罪がどこに帰結するかは明白です。とは言え、茫々の漂いから時折むつくりと、小波をもって殿の勇み足を諫める彦左衛門の鶴声は別格ですが、伏し目がちながら耳障りに洩らす弱き者の独り言が紙面を糺し、皆様との交流対話の一助になればと、それぞれの輩が些々やかなレジスタンスに勤しんでいます。次号は平成14年1月の予定です。(宇佐見)

第11回産業医・産業看護全国協議会のご案内

企画運営委員長 埋忠 洋一 (三和銀行)

第11回産業医・産業看護全国協議会は、下記要領で開催することがほぼ決定しましたのでご案内申し上げます。久しぶりの東京における開催ですので、多数の方々の参加を期待いたしております。

記

1.開催場所 京王プラザホテル

2.プログラムテーマ 「健康管理のモラル、論理、技法」

10月19日(金)

サテライトセミナー (2会場同時並行) 18:00~19:00

- ①高血圧関連テーマ、
- ②メンタルヘルス関連テーマ

ワークショップ (3会場同時並行) 19:00~20:30

- ①ITを活用した健康管理の方法、
- ②産業保健からみたTHP課題
- ③産業保健におけるプライバシー保護

10月20日(土) 9:00~9:30 産業医部会総会

8:45~9:45 産業看護部会総会

シンポジウム I 9:30~11:00

「自殺とメンタルヘルスケア・・・リスクマネージメントの視点から」

シンポジウム II 9:45~11:00

「心の健康づくりにおける4つのケアと産業看護職の役割」

会長講演 11:00~12:00

「労働生活と健康日本21」

ランチョンセミナー 12:10~13:10

- ①高脂血症関連テーマ
- ②糖尿病関連テーマ
- ③禁煙指導関連テーマ

関東地方会長、企画運営委員長挨拶 13:20~13:30

全体討議 13:30~15:00

論点の分かれることをテーマにして、フロア全体で意見を出し合う

シンポジウム 15:00~16:30

「健康教育・・・行動科学の方法・行動変容の理論・保健指導の技術」

※ 終了後に懇親会(京王プラザホテル内)を用意しています。

参加申込問い合わせ先: ヒューマンリサーチ

TEL03-3358-4001, FAX03-3358-4002

早めの申込は、参加費が割引になりますので、ぜひ早めにお申し込みを。